

令和3年度（2021年度）事業報告書（案）

特定非営利活動法人 せんだいアビリティネットワーク

事業の成果

令和3年度を振り返ると、本法人にとってはじめてとなる職員の退職に伴う引継が発生した年度となり、通常の業務と次年度に向けた職員体制の準備が同時進行した。

また、重度障害者コミュニケーション支援センターの拠点が法人事務局の近くより遠方に移転したことから、前年度に続き事業の拠点が分散するなど、変化の多い一年間となった。

【2021年度せんだいアビリティネットワーク実施事業】

事業名	事業内容	事業名・活動内容
1. IT 支援事業	1. IT 講習（1. 仙台市バーチャル, 2. 宮城県） 2. IT サポート事業（1. 仙台市重コミュ, 2. 宮城県） 3. パソコンボランティア養成等業務（宮城県）	・障害者バーチャル工房事業 ・重度障害者コミュニケーション支援センター事業 ・みやぎ障害者 IT サポートセンター業務
	4. IT 支援関連事業	・1. 意思伝達装置等の機器販売 ・2. 収入獲得支援（依頼対応）
2. 福祉支援事業	1. 自助・自立のための支援事業	・協議のみ
	2. 福祉支援関連事業	・福祉名刺 ・卓上カレンダー販売
3. 各種委託事業	1. ホームページ更新委託	・ホームページ更新作業委託
	2. 伝の心カスタマーセンター業務委託	・伝の心カスタマーセンター業務 ・レンタル品の検品業務
4. 資格認証事業	1. 重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証	・申請に対する審査・資格認証
5. 障害福祉サービス	1. 障害者就労継続支援 B 型事業所	・生産活動機会の提供 ・就労に必要な知識や能力の訓練
6. その他 助成事業	1. ソフトバンク・ソーシャルチャレンジ	・研究開発や成果発表

1. IT 支援事業

1. 1. IT 講習事業

計画の通り仙台市の委託事業（バーチャル工房事業）、宮城県の委託事業（みやぎ障害者 IT サポートセンター）の2つの委託事業を通じて取り組んだ。

1. 1. 1. 【仙台市委託分（バーチャル工房事業）】

本年度は、基礎コースと応用コースに分けた2つの「3次元 CAD 講座」、「画像編集講座」、「動画編集講座」、「HTML・CSS 基礎講座」の全5講座を実施した。

実施状況の概要は下記の表となる。

講座名	実施時間	開催形式	会場	申込数 (内欠席者数)
3次元 CAD 講座 基礎コース	6 時間	対面	宮城県障害者福祉センター	4(1)
3次元 CAD 講座 応用コース	6 時間	対面	宮城県障害者福祉センター	4(1)
画像編集講座	19 時間	対面・オンライン	仙台市市民会館会議室	5(2)
動画編集講座	18 時間	オンライン	法人事務局内(配信場所として利用)	3
HTML・CSS 基礎講座	8 時間	対面・オンライン	東北福祉大学内	5(2)
全 5 講座	全 61 時間		4 会場	21 名(6)

昨年に引き続き本年度も昨年に引き続き感染拡大の予防対策のため、申込者には下記(1)～(3)に該当する場合は、講習会への参加を控えるよう呼びかけた。

- (1)講習会開催の前日から当日に 37.5 度以上の発熱があったとき
- (2)体調が優れないとき
- (3)コロナウイルス感染者との濃厚接触者となったとき

幸いなことに本年度は講習会の受講者および講師、関係スタッフらに、発熱等や感染の疑いがある症状がある方や濃厚接触者になったという方もなく、病欠による欠席者は少なかった。

しかし、申込者の中には、市中のコロナウイルス感染拡大や、感染の収束の様子が見られないことから、感染に対する不安等で参加を見合わせる方や、ワクチン接種による副反応で欠席される方もみられた。

また、県にコロナウイルスに関わる緊急事態宣言が令和3年8月27日～9月12日に発令されたことや、令和4年3月16日に発生した地震の影響を受けて、開催を延期した講習会が発生した年度となった。

講習会名	日程変更前	日程変更後	延期理由
画像編集講座	9月	11月	感染拡大を受けて
動画編集講座	9月	2月	感染拡大を受けて
HTML・CSS基礎講座(一部日程)	3月10日・17日・24日	3月10日・24日・31日	3月16日に発生した地震の影響

<周知の方法>

バーチャル工房事業ホームページでの掲載、関係機関に講習会案内の設置依頼、これまでの受講者の中で「講習会の案内があったら教えて欲しい」と要望に対して、メール又は資料を郵送する形で周知を図った。

講習会案内の設置依頼をした関係機関は、下表の通りである。

関係機関(五十音順)	
LITALICO	仙台市若林区障害者福祉センター
アート・インクルージョン・ファクトリー	仙台メンタルヘルスサービス
アビリティーズジャスコ	チャレンジドジャパン仙台中央センター
あんぶれら舎	つなぎっこ
オルタ八乙女	東北福祉大学
サポートはぎ	南部アーチル
就労継続支援B型事業所「せんだい庵」	ぴあら若林
就労支援センター グッジョブ	ふらっと青葉
障害者総合支援センター	ふらっと泉
障害者相談支援事業所「ほっとすぺーす」	フロンティアリンク
すまいるライフ	ベネフィット仙台
仙台市泉障害者福祉センター	北部アーチル
仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター	みやぎNPOプラザ
仙台市障害者スポーツ協会	宮城県障害者職業センター
仙台市精神保健福祉センター	宮城県障害者体育センター
仙台市太白障害者福祉センター	みやぎ障害者ITサポートセンター
仙台市宮城野区障害者福祉センター	

<受講状況について>

昨今のコロナウイルス感染拡大を受けて在宅ワークが浸透してきたことが、本事業の講習会にも影響しており、対面とオンラインによるハイブリッド形式で募集した講習会では、受講者の7割がオンラインでの参加となった。

在宅ワークに取り組むにあたってパソコンの技術は必要不可欠となることから、今後も在宅にかかわるニーズが高まることが予想される。「就労」を目標に職業訓練として専門的なパソコンの知識・技術を身につけていくとともに、これらの技術を活かすワークフローを実践していけるような環境づくりが引き続き期待されている。

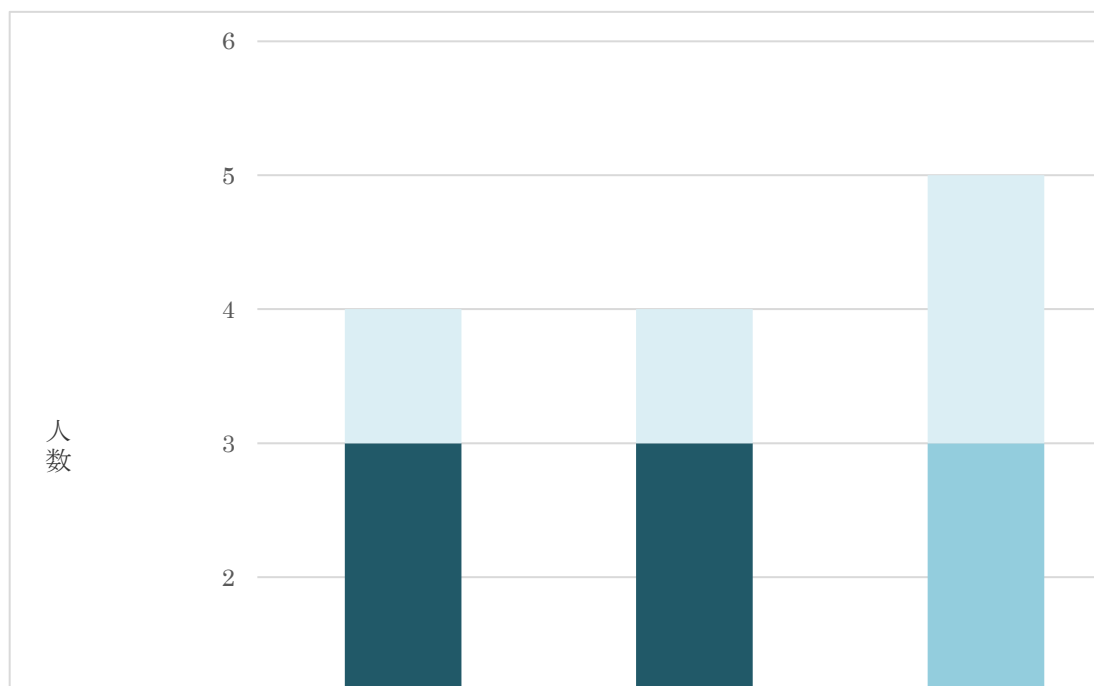


表 1 受講方法の内訳と欠席数

※3次元CAD講座は、受講者にとって難易度が高いことや、使用するパソコンに高い処理能力が求められる。オンラインで実施した場合に、不具合発生時などタイムリーなフォローが困難であることから、対面受講者のみの募集とした。

1. 1. 2. 【宮城県委託分（みやぎ障害者ITサポートセンター）】

みやぎ障害者ITサポートセンター事業にて、本年度、講習事業について仕様変更があり、集合研修である「IT講習」と「スキルアップ研修」を統合した「障害者ITスキルアップ講習」。そして、集合研修に参加が困難な方向けの「障害者IT訪問講習」の2つに取り組んだ。

「障害者ITスキルアップ講習」

ここでは、基礎技能の習得を目的にした集合講習と、スキルアップのための集合講習を実施した。今年度は、全39回の講習にて187名の受講があった。

講習終了後は、受講者に対するアンケートや講師提出の講習日報等の意見を取りまとめて次講習の参考とした。

障害種別に集計した実施状況は、下記の通りとなる。

手帳種別	回数
身体	9
療育	5
精神	7
療育と精神の混合	3
身体と精神の混合	6
身体と精神と療育の混合	9
	全39回

「障害者向けパソコン訪問講習」

ITの利活用能力を向上させることにより、在宅での就労や社会参加の可能性を拓けるべく、IT講習会等の集合講習に参加することが困難な県内に居住する肢体不自由者・視覚障害者・精神障害者・発達障害者を対象に、講師が受講者宅に訪問、もしくは受講者の利便性に配慮した会場を選定し1人あたり3時間×2回以上を基本として、障害程度と身体状況により適宜時間と日程を調整しつつ実施した。手帳種別の実施状況は下記の表の状況となった。

手帳種別	人数
肢体不自由者	11名
療育	1名
精神	3名
その他	1名
	計 16名

1. 2. IT サポート事業

IT サポート事業では、仙台市委託分（仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター）と宮城県委託分（みやぎ障害者 IT サポートセンター）として取り組んだ。

1. 2. 1. 仙台市委託分（仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター）

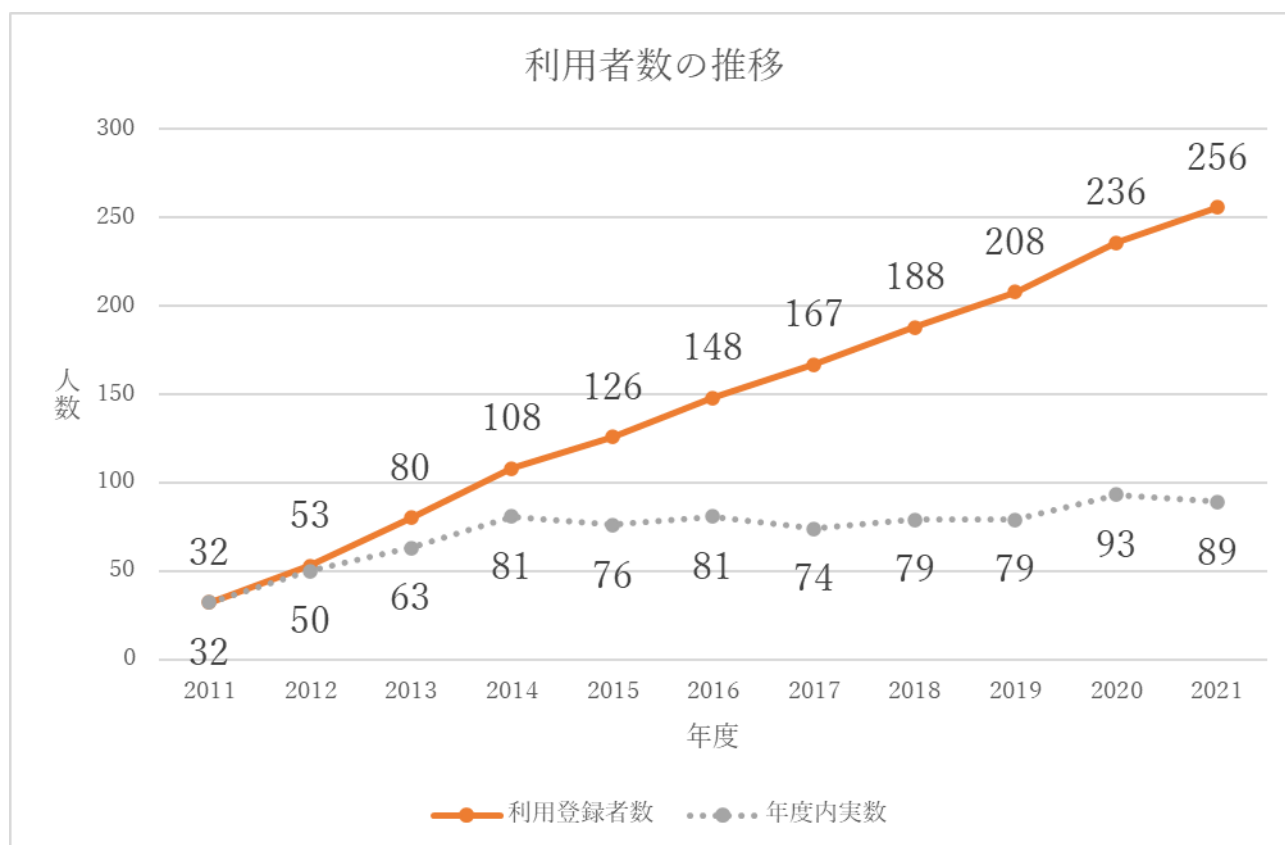
2021 年 3 月末に事務所を青葉区千代田町から泉区泉中央へ移転したことから、2021 年度は新たな拠点（仙台市障害者総合支援センター内）を整備し、行政との連携強化を図りながら従来の支援に従事した。

また、2020 年度に常勤職員 1 名から高齢を理由に退職の申し出があったことから、引継ぎのため常勤職員 1 名を増員し、4～2 月までが常勤職員 5 名体制、2～3 月までが常勤職員 4 名体制という変則的な人員体制での運営となった。

土曜日と日曜日の対応については、事務所として活用している庁舎が休日閉館している場合もあるため、常勤職員による電話転送対応を主とした。

利用状況については、昨年度から利用者が 20 名増加し、累計 256 名（内 93 名は死去）、年度内の対応実人数は 89 名となった。

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
利用登録者数	32 名	53 名	80 名	108 名	126 名	148 名	167 名	188 名	208 名	236 名	256 名
年度内実数	32 名	50 名	63 名	81 名	76 名	81 名	74 名	79 名	79 名	93 名	89 名



利用者の 256 名の年齢層は、70 代が 77 名と一番多く、次いで 60 代が 53 名、50 代が 36 名、80 代が 34 名となった。

疾病別では、ALS が 133 名と半数以上を占めた。続いて、多系統萎縮症 24 名、頸髄損傷 18 名、筋ジストロフィーが 12 名の状況となる。

利用者 256 名から死去人数 93 名を差し引いた 163 名の年齢層は、多い年代から観ていくと 60 代が 40 名で一番多く、次いで 70 代が 38 名、50 代が 31 名、40 代が 18 名、80 代が 10 名となった。

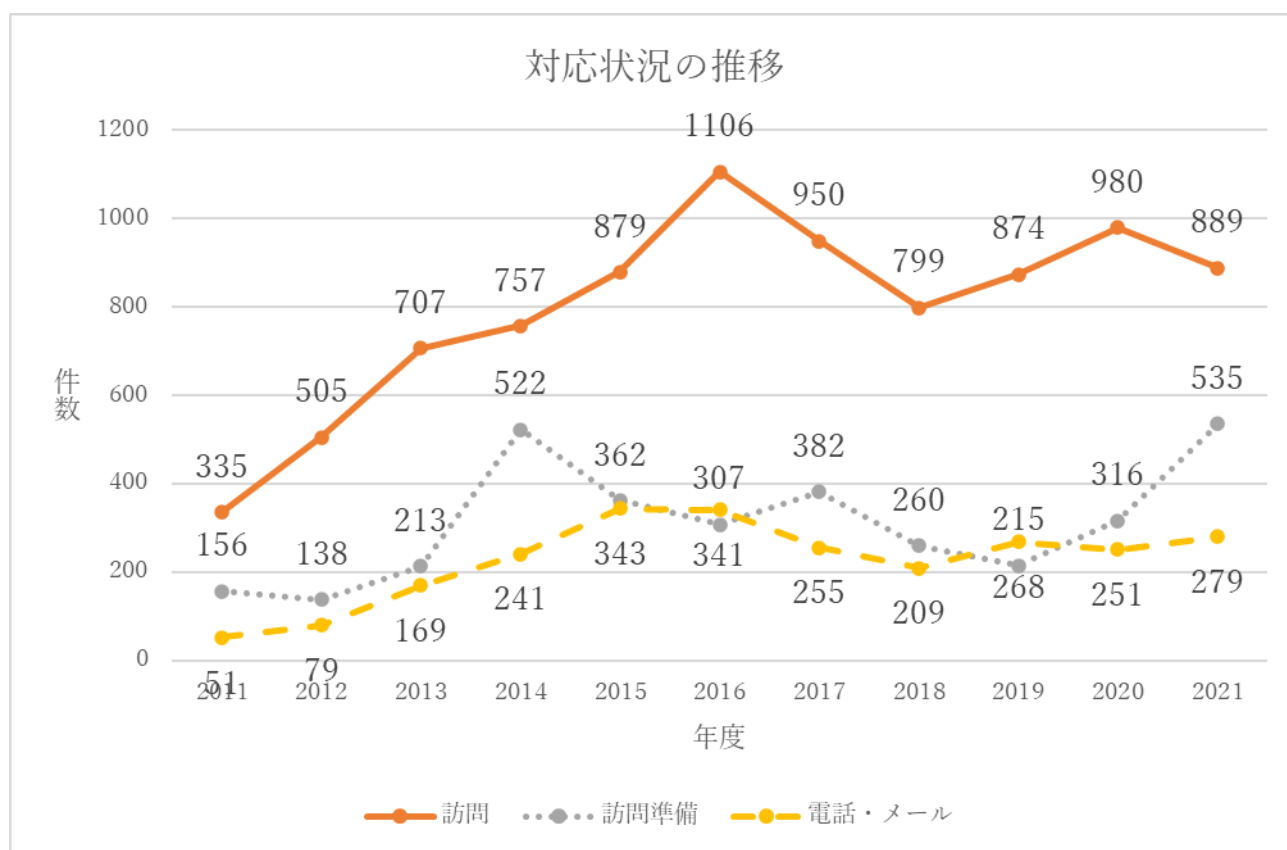
163 名の疾病別では、ALS が 68 名、次いで多系統萎縮症 15 名、頸髄損傷 15 名、筋ジストロフィーが 10 名の状況となる。

訪問件数は前年度の 980 件から 889 件へ減少した。これは、コロナ禍の影響を受け、訪問を自粛するよう行政指導があったためであると考えられる。具体には、2021 年の 8～9 月が宮城県のまん延防止等重点措置により訪問自粛期間となった。その後、1 月から再び期限未定で訪問自粛の行政指導があった。訪問自粛中は緊急性の高い要望のみの対応に切り替えた。これにより、平時の訪問平均回数が約 92 件／月に対し、自粛期間中の訪問平均回数が約 49 件／月という状況であった。

なお訪問先の内訳は、利用者宅が 699 件、入院先医療機関が 63 件、施設等が 127 件となっている。

対応状況

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
訪問	335	505	707	757	879	1106	950	799	874	980	889
訪問準備	156	138	213	522	362	307	382	260	215	316	535
電話・メール	51	79	169	241	343	341	255	209	268	251	279



1. 2. 2. 宮城県委託分（みやぎ障害者 IT サポートセンター）

みやぎ障害者 IT サポートセンターでの IT サポート業務は、「①相談支援」「②情報提供・普及啓発業務」「③就労支援業務」「④IT 支援ネットワーク構築業務」に取り組んだ。

①相談支援業務

サポートセンターでは相談依頼に対して、電話・FAX・電子メール・窓口来所により相談を受け付け

ているが、これらで対応できない場合は依頼者宅へ相談員が直接訪問するという形でサポートを行った。

相談対応件数等

2020年度の相談対応件数は575件（前年度465件）、月平均48件（前年度39件）であった。対応方法の内訳の件数は下記の通りとなった。

訪問	来所	メール	FAX	電話
116	22	143	2	292

②情報提供・普及啓発業務

サポートセンターには、情報提供・普及啓発のために肢体不自由者向けの各種トラックボールやスイッチ等の入力支援機器及び難病患者等重度肢体不自由者向け意思伝達装置やWindows操作支援等の支援ソフトウェア、聴覚障害者向けに音声認識ソフトウェア、視覚障害者向けにスクリーンリーダー等の各種音声対応ソフトウェアやこれらをインストールしたパソコンを常設展示しており、相談者が実際に試用できる環境を整え、要望に応じ障害当事者及び病院等関係機関への貸し出しを行った。

今年度は、サポートや試用、修理代替、講習の用途にて、全32件の貸出が行われた。

③就労支援業務

定期的にハローワークや関係機関へ出向き求人票や職業訓練パンフレット等を入手、対象となる相談者に提供し活用してもらった。就職活動時には諸機関と連携して支援、就職後もフォローを継続している。

④IT支援ネットワーク構築業務

サポートセンターで対応中の在宅あるいは長期入院、療養中の障害者に対する支援を円滑に進めるため、関係者（家族・ヘルパー・ボランティア・作業療法士等医療関係者・関係機関職員等）に対して支援機器及びソフトウェアについて、必要に応じて説明を行った。

1. 3. パソコンボランティア養成等業務

パソコンボランティアについては、パソコンボランティアの登録者を派遣する「派遣業務」と「養成業務」の二つに取り組んだ。

①派遣業務

パソコンボランティア登録者の活動を支援するための事業である派遣事業を継続した。これまで通り、活動を必要としている当事者とのコーディネート。ボランティア保険への加入。活動に要する費用などを支給するなどの業務や登録者を対象にした継続研修を実施した。

本年度は、21名（前年度18名）の派遣希望者に対し、パソコンボランティア10名（前年度8名）により延べ65回（前年度60回）の活動が実施された。一方で、一部の派遣希望者に対して、みやぎ障害者ITサポートセンター職員による20回の訪問対応も行われた。また、パソコンボランティア登録者に対する研修会を実施した。今年度は、感染拡大防止を図るため、個別対応とし、内容と実施場所については参加者の希望を優先して実施した。研修受講者は計5名であった。

②養成業務

養成講座の実施にあたり、前年度に引き続き宮城障がい者福祉協会の協力のもと実施した。本年度は当初計画していた夏期において、「まん延防止等重点措置」が出されたため開催時期を2～3月に延期して実施した。

実施状況では、仙台市宮城野区内の宮城県障害者福祉センターを会場に、基礎課程、中上級課程の計4日間1コースの養成講座を開催した。結果、定員5名に対して全課程を通じての受講修了生は1名となった。

受講生4名の内、全課程終了の受講生は、勤人1名であり、感染リスクを考慮して1課程もしくは2課程の受講とした者は、社会人（パソコンボランティアとしての活動者）1名並びに大学生2名であっ

た。

受講生に受講の成果を尋ねたところ、勤人 1 名は重度肢体不自由生徒を担当する特別支援学校教員であり、支援課題の解決の糸口を見出したことに加えて講師との関わりを受講の成果とした。

パソコンボランティア 1 名は、iPad 活用の講義を受講し、関連ソフトの知識と活用技術についての学びを成果とした。

大学生 2 名の中で肢体不自由学生 1 名は、本人の課題であった入力補助機器の活用について知識を習得できたことを受講の成果に挙げた。他の 1 名は、東北大学の産学連携機構が主催するプログラム〈Early Work Project〉にて、「手を使わないデバイスの入力インタフェースの開発」という技術プロジェクトにチームで取り組んでいる医学部生（5 年生）であり講義で得た知識（情報）をチームに共有し、再度仮説の検証し直しを行ったことを成果とした。

＜パソコンボランティア養成講座の実施概要＞

	期日	講師	受講者
基礎課程	2 月 26 日 (土)	・宮城県障がい者福祉協会 ・仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター ・楽暮プロジェクト 末田 耕司 堀米 香菜 竹島 久志	2 名
中上級課程	2 月 27 日 3 月 5 日 3 月 6 日	2 月 27 日 (日) ・仙台市視覚障害者福祉協会 ・みやぎ障害者 IT サポートセンター 3 月 5 日 (土) ・相談支援事業所 ぱるけあであらんで ・東北福祉大学 情報福祉研究室 ・宮城県障がい者福祉協会 3 月 6 日 (日) ・メイ・ソリューション株式会社 ・宮城県障がい者福祉協会 鳴原 真一 鳴原 直文 高橋 壮 高橋 俊史 末田 耕司 木島 真央 末田 耕司	3 名

1. 4. IT 支援関連事業

「IT 支援関連事業」では、障害のある方の在宅就労支援事業の実践場面として【収入獲得支援】と重度障害者用意思伝達装置や日常生活用具（情報・通信支援用具）等の【支援機器の導入支援】に取り組んだ。

1. 4. 1. 【支援機器の導入支援】

本年度より、仙台市内での活動を中心に取り組んだ。状況として、全 21 案件（前年度 16 案件）あり、個人 20 案件（前年度 13 案件）、医療機関 1 件。取り組みあたっては、仙台市重度障害者コミュニケーション支援センターの職員と連携した動きとなった。

引き合いのあった機器の内訳は、「伝の心」7 件、「オペレートナビ」3 件となった。

1. 4. 2. 【収入獲得支援】

「キーガード製作」「印刷関連」の受注に対応した。

キーガード製作については、キーボードを採寸して作るオーダーメイド品が 4 件と、キーボードとセットのキーボード付きキーガードが 3 件の計 7 案件となった。印刷関連については、大学教員から 2 件、スポーツ団体から 1 件の依頼となった。

「キーガード製作」

発注者
北海道（団体）
和歌山県（個人）
東京都（個人）
北海道（個人）

埼玉県（企業）
宮崎県（個人）
神奈川県（個人）
7 件

「印刷関連」

発注者	業務内容
大学教員	冊子印刷
大学教員	冊子印刷
スポーツ団体	表彰状印刷
3 件	

2. 福祉支援事業

2. 1. 自助自立のための支援事業

本年度は、協議のみ。

2. 2. 障害者作品商品化・販売事業

『福祉支援事業』では、例年通り「障害者作品商品化・販売事業」を継続した。教員からの発注数で、福祉名刺は 56 件（61 セット）の注文となった。

3. 各種委託事業

『各種委託事業』では、引き続きホームページ制作・更新業務委託（3. 1.）とパシフィックサプライ株式会社（大阪府）から委託を受けた重度障害者用意思伝達装置「伝の心」の「伝の心カスタマーセンター業務（3. 2.）」に取り組んだ。

3. 1. ホームページ制作・更新業務委託

多く案件を就労継続支援 B 型事業所利用者に移行させて対応したため、法人独自での対応は、2 件となった。

発注者	業務内容
団体	HP 制作
個人	HP 制作
2 案件	

3. 2. 伝の心カスタマーセンター業務委託

パシフィックサプライ株式会社からの委託を受けた「伝の心カスタマーセンター業務」を継続して実施した。電話対応件数は、昨年度より減少し前年度の 186 件に対し、166 件となった。電話対応の内容については、主な内容として「伝の心」のメール機能に関する電話相談が多く 28 件、続いてブラウザに関する相談が 27 件、スイッチに関する相談が 16 件、LINE に関する相談が 16 件となった。引き続き、伝の心の利用者の希望による、YouTube や AbemaTV などのオンライン配信コンテンツ閲覧などの、伝の心の機能外の相談が増えている傾向にみられた。

月別対応件数については、下記の表の通りである。

「伝の心カスタマーセンター月別電話対応状況」

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計(件)
2020	12	10	27	18	14	11	15	19	9	6	21	24	186
2021	18	15	18	15	10	14	18	10	18	10	11	9	166

「検品物にデモ機の追加」

電話の待機時間を活用し、各種コミュニケーション機器の返却品の検品業務にあたった。検品項目の追加により検品の種類と量が増えたため、検品物で事務所スペースが手狭になる様子が見られた。

電話対応に時間を要した時に、十分な検品時間が取れなくなる場合があった。同時に、荷物の受け取りが午後になることが増え、検品が日をまたいで行うことも多く見られた。特に、次の日の職員への引継ぎが困難な場合に、勤務時間外まで作業が伸びるケースが見られた。

「デモ機 月別検品状況」

機材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
伝の心	22	10	14	16	14	10	21	10	28	19	11	16	191
SW	7	6	5	8	12	13	9	5	11	9	2	8	95
デモ機	73	79	78	67	40	80	60	90	64	75	69	61	836

※「伝の心」の検品はダブルチェック込みの個数

「相談内容の変化について」

LINE のアプリケーションの使用可能になったことによって、LINE の設定に関する相談が増えた。また、相談として YouTube や AbemaTV、TVer などのオンライン動画配信コンテンツを閲覧したいとの相談が増えた印象に感じられた。

一方、ブラウザ機能で起動される Internet Explorer11 だが、マイクロソフトによるサポート終了に合わせ、「伝の心」のバージョンアップがなされた。これにより Microsoft Edge が「伝の心」のブラウザ機能で使えるようになった。

なお、旧型の「伝の心」については、Google Chrome などのブラウザをインストールする方法や、新しい「伝の心」への買い換えを勧める方向に対応が移行した。

「コロナ環境による影響」

コロナ禍の影響か、直接「伝の心」に携わっている支援者ではなく、販売店や家族を経由しての連絡が多い傾向が見られた。現場で「伝の心」を触ってもらいながらの電話サポートができず、又聞きの情報を用いた対応が増えた事で、リアルタイムの正しい情報が得られず、解決に時間を要する傾向がみられた。

「視線入力について」

視線入力装置のセッティングに関する問い合わせが増えた。視線入力支援に対する研修会を引き続き予定していたが、コロナ禍などにより開催が難しく、十分な研修機会が設けられない状態が続いた。

「今後の課題」

・電話対応

従来通り、電話対応について真摯に対応するように心がけ、回答が難しい場合は各種職員と連絡を取り合い、可能な限り解決への道筋を伝えられるようにする。

また、利用者からの電話対応について、問い合わせの内容がカスタマーセンターの範疇なのかどうかを見極める必要がある。

・検品について

引き続き個人情報に留意して、正確な検品作業を心がけるようにする。検品物が増えた際には、職員と連携して取り組むよう心掛け、従事者の身体的に負担にならない配慮を行う。

・視線入力について

定期的な研修の機会を設けるなど、視線入力装置特有の操作方法についての勉強が必要。

カスタマーセンターへの実機導入の整備が求められている。

・カスタマーセンター用の「伝の心」について

年数の経過や「伝の心」のバージョンアップにより、カスタマーセンター内の「伝の心」とユーザーとの「伝の心」の間で機能の差が目立ち始めている。新しいバージョンの伝の心の配備について委託元のパシフィックサプライ株式会社に相談中である。

4. 資格認証事業

4. 1. 重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証事業

重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証事業については、3 名からの新 3 級の申請があり、申請者 3 名全員に対し、資格認証を行った。

5. 障害福祉サービス

5. 1. 障害者就労継続支援 B 型事業所

就労継続支援 B 型事業のサービス提供は、次の実績となった。

年間のサービス提供日数が 233 日、個別支援計画作成・見直しが 30 件、アセスメント 4 件、モニタリング 27 件、面談・相談対応等 467 件、訪問対応 129 件となった。

利用状況では、登録利用者数 19 名（中途退所者 2 名を含む）、延べ利用者数 1,584 人（うち在宅利用者数 1,362 名）、平均利用者数 6.8 名となった。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	前年度比
サービス提供日数	238 日	226 日	230 日	233 日	3 日↑
個別支援計画作成・見直し	17 件	28 件	26 件	30 件	4 件↑
アセスメント	11 件	4 件	1 件	4 件	3 件↑
モニタリング	16 件	43 件	35 件	27 件	8 件↓
面談・相談対応等	87 件	251 件	485 件	467 件	18 件↓
訪問対応	22 件	121 件	142 件	129 件	13 件↓
就職	0 名	0 名	1 名	0 名	1 名↓
登録利用者数（年度内中途退所者含む）	13 名	18 名	15 名	19 名	4 名↑
延べ利用者数	685 人	1,509 人	1,633 人	1,584 人	49 人↓

登録利用者 19 名のうち重度障害者は 4 名おり（延べ利用者数 306 人）、全体の延べ利用者数の 19.3% が重度障害者であった。また、本事業所の特色である“在宅利用”については 7 名の登録利用者が在籍していた。

	通所参加利用者数	在宅参加利用者数	参加利用者数合計
青葉区	10	2	12
宮城野区	0	0	0
若林区	1	1	2
太白区	0	2	2
泉区	1	1	2
蔵王町	0	1	1
計	12	7	19

利用者獲得に向けての動きとしては、新型コロナウイルスの影響が依然として大きく、2021 年度は対面での周知活動を避け、各区役所や相談支援事業所へのパンフレット等資料配布、Twitter や Facebook、web ページを用いた情報発信を行った。その結果、問合せ 25 件、見学 13 件、体験利用 6 件、新規登録利用者 6 名となった。

工賃の発生する作業は、2020 年度に引き続き「カッティングシート加工」4 件、「文字・音声データ入力」12 件、「ホームページ製作・更新作業」39 件、「アンケート集計作業」3 件を提供し、2021 年度作業件数は合計 75 件であった。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
カッティングシート加工	12	8	4	4
文字・音声データ入力	16	16	13	12
3D モデル作成・出力	11	0	0	0
ホームページ製作・更新作業	15	39	67	39
動画のデジタル化	5	1	0	0
アンケート集計作業	3	5	2	3
大判印刷	2	1	0	0
写真撮影	2	0	0	0
パンフレット立て作成	1	0	0	0
機器販売事業書類等作成作業	3	0	0	0

封入作業	—	1	0	0
画像加工	—	1	0	0
ウェブアクセシビリティ検査業務	—	—	—	11
キーガード制作関連	—	—	—	1
チラシ作成作業	—	—	—	3
描画・デザイン作業	—	—	—	1
計（件数）	70	72	86	75

「工賃向上に向けて」

新型コロナウイルスの影響もあり、例年であれば安定していた大判印刷などの受注件数が減少し、同時に工賃獲得作業も減少してしまう恐れがあったため、2021 年度では新たな作業の創出につとめた。新たな受注作業として、職員と利用者が検査員の資格を取得し、「ウェブアクセシビリティ検査業務」に取組んだ。また、チラシ作成、キーガード作成業務に必要な完成イメージ図の作成、年賀状のイラスト作成などを新たな作業として創出した。結果、利用者ひとりあたりの平均工賃月額が 4,883 円となり、前年度から 2,541 円増となった。

「技能訓練」

技能訓練としては、書類作成、画像加工、ホームページ作成、3D モデル作成から 3D プリンタへの出力、カッティングシート作成、ウェブアクセシビリティ学習の各プログラムを提供した。前年に引き続き新型コロナウイルスの影響により在宅参加の機会が多かったことから、ビデオ通話、チャットツールの扱い方やマナーについても訓練をすることができた。

「感染防止措置」

新型コロナウイルスに対する感染防止措置としては、職員のワクチン接種、出勤前の検温、マスクの着用、アルコール消毒の徹底、定期的な室内換気を行った。年度内の動きとしては、4～6 月の 3 か月間は、利用者のワクチン接種率がまだ低かったため、通所利用を停止し在宅利用のみの開所とした。

7 月からは感染者数の減少、利用者のワクチン接種率増加を受け、入室管理の徹底と利用者間にパーテーション配置をしたうえで、作業室内の通所利用者上限を 6 名とし限定的に通所利用を再開した。

「職員体制の強化」

慢性的な職員不足緩和への試みとして、常勤の生活支援員がサービス管理責任者の基礎研修を受け、「みなしサービス管理責任者」の資格を取得した。これによりサービス管理責任者業務の一部を有資格の生活支援員と分担することが可能となり、サービス管理責任者の負担を低減させることができた。

「年度内目標と評価」

事業計画として 1 日平均利用者数 10 人、平均工賃月額 5,000 円以上を目標としていたが、新型コロナウイルスや天災の影響で、1 日の閉所、67 日の通所利用休止が生じたため、結果 1 日平均利用者数 6.8 人、平均工賃月額は 4,883 円と目標を下回った。

	計画	実績	前年度比
1 日平均利用者数	10 人	6.8 人	0.3 人 ↓
平均工賃月額	5,000 円以上	4,883 円	2,541 円 ↑

「課題」

今後の課題としては、

- ・新規利用者の獲得
- ・施設内での三密回避のための適切な通所利用者数や利用形態の調整
- ・受注作業の拡大
- ・職業指導員ならびに生活支援員不足の解消
- ・利用者の就労継続支援 A 型事業所や就労へのステップアップ

等が挙げられる。

6. その他 助成事業等

6. 1. ソフトバンク・ソーシャルチャレンジ

昨年同様に、法人職員が東北福祉大学漆山研究室と共同で研究に従事し、法人として、実証先となる ALS 患者のセレクション、及び実証先の確保や日程調整といった渉外対応を担った。

コロナ禍の影響から、昨年度中断となった難病患者等の療養先での実証試験は、大きく見直すこととなり、療養環境で Pepper を遠隔操作するといったアバターの活用の取り組み事例は1件のみとなった。

地域で活躍する訪問看護ステーションの OT を通じて、障害を持つ子供を対象としたニーズの聞き取り調査の機会獲得や在宅への訪問の可能性を打診し、一部の当事者やその家族等から理解は得られたが、往診の主治医から活動を控える旨の指導があり、今年度は安全性を考慮し活動を見送る結果となった。

一方、東北福祉大学の情報支援応用実習の時間を活用し、授業を受講している学生等に対し、ロボットプログラミングの体験の機会を設けた。ロボブロックを活用した Pepper 用ロボアプリの作成、ロボアプリの効果の考察等をディスカッションし、ロボットの可能性について理解を深めるといった取り組みを実施した。

R3.5	昨年度中断した ALS 患者への実証試験を再考
R3.6	当初予定していた ALS 患者へ実証試験の説明と日程の打診
R3.7	ALS 患者がベッド上から Pepper を遠隔操作する実証試験を実施
R3.12	東北福祉大学の情報支援応用実習で Pepper 用ロボアプリの作成とロボアプリの効果の考察等をディスカッションし、ロボットの可能性について理解を深める。
R4.1	地域のリハ職を通じて、在宅療養中の高校生や小学校に通えない子が、Pepper を活用したいという意見が届くが、主治医の判断により接触を断念。

2 事業に関する事項

令和3(2021)年4月1日～令和4(2022)年3月31日

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
1. IT支援事業						
1. 1. IT講習事業	1. 1. 1 仙台市委託分	下記	下記	15人	障害者219人	11,096
	3次元CAD基礎	9/30.10/1	宮城県障害者福祉センター	2人	障害者3人	
	3次元CAD応用	11/10.11	宮城県障害者福祉センター	2人	障害者3人	
	画像編集	11/7.14.20	仙台市民会館 Google Meet	3人	障害者3人	
	動画編集(ビジネスメール含む)	2/17.18.19	Google Meet	2人	障害者3人	
	HTML・CSS	3/10.24.31	Google Meet	2人	障害者3人	
	1. 1. 2. 宮城県委託分	4/1-3/31 (随時)	県内各地	4人	障害者187人	
	スキルアップ IT講習 39回				障害者16人	
	訪問講習 16名分					
1. 2. ITサポート事業	下記	下記	下記	15人	障害者延べ729人	
	1. 2. 1. 仙台市委託分	4/1-3/31 (随時)	仙台市内及び 入院先医療機関 訪問支援889件 支援準備535件 電話・メール279件	5人	市民延べ20人 障害者89人	
	1. 2. 2. 宮城県委託分		宮城県内 相談件数575件 訪問116件 来所22件 メール143件 FAX2件 電話292件	4人	障害者延べ575人	

1. 3. パソコンボランティア等	派遣業務 派遣 登録者研修 養成講座 基礎課程 中・上級課程	4/1-3/31 (随時) 2/26 2/27 3/6 3/6	県内各地 宮城県障害者 福祉センター	6人 3人 3人	障害者延べ65人 市民10人 市民5人 市民2人 市民3人	
1. 4. IT支援関連事業	下記 1. 4. 1. 支援機器導入事業 1. 4. 2. 収入獲得支援事業 キーガード製作 印刷関連 ・冊子印刷 ・表彰状印刷	下記 4/1-3/31 (随時)	下記 仙台市 事務局 障害者宅	3人 1人 2人	重度障害者20人 障害者1人 重度障害者20人 医療機関1カ所 障害者1人	4,648
2. 福祉支援事業						
2. 1. 自助・自立のための 支援事業	※今年度は計画 協議のみ					
2. 2. 福祉支援関連事業	障害者作品商品 化・販売事業： 福祉名刺	下記 4/1-3/31 (随時)	下記 事務局	2人 2人	市民延56人 販売数56件	161
3. 各種委託事業						
3. 1. 事務委託	計画のみ	下記	下記	5人	障害者延1人 重度障害者249人	53
3. 2. HP制作・更新業務委託	HP制作・更新業務委託 2件	4/1-3/31 (随時)	事務局	2人		
3. 3. 伝の心カスタマーセンター業務委託	パシフィックサ プライ株式会社 電話対応	4/1-3/31	パシフィックサ プライ (株) 仙台営業 所	2人	伝の心ユーザー (重度障害者) 166人	
4. 資格認証事業						
4. 1. 重度障害者ICTコ ーディネータ育成 資格認証	新3級認定	下記 4/1-3/31	下記 事務局	2人 2人	学生3人 学生3人	0

5. 障害福祉サービス						
5. 1. 就労継続支援B型	訓練業務 HP製作・更新 カウンセリングシート データ入力 等	下記 4/1-3/31	下記 就労継続支援B 型事業所「せんだい庵」	4人	障害者延1,584人 内重度障害者延 306人 2022年3月末日 登録者数：17名	1,835
6. その他						
6. 1. 助成事業	ソフトバンク・ソーシャル チャレンジ	下記 4/1-3/31	下記	1人 1人		0